

# サーモスタッフ付シャワーバス水栓

## 1. 施工の前に

### 安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客さまに引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

### 用語および記号の説明

<b>注意</b>	「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」
	「注意しない！」（上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。）
	「してはいけません！」（一般的な禁止記号です。）
	「分解してはいけません！」
	「指示通りにしなさい！」（一般的な行動指示記号です。）

### !! 注意

	<b>湯水を逆に配管しないでください。</b> ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。	
	<b>給湯器の温度設定は60°C以上で使用しないでください。</b> ※水栓が破損し、ヤケドや家財を濡らす恐れがあります。	
	<b>衝撃を与えたる、もたれかかったりしないでください。</b> ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。	
	<b>【寒冷地用の場合】水抜栓は水抜き以外の目的で開けないでください。</b> ※湯水が噴き出し、ヤケドや家財等を濡らす恐れがあります。	
	<b>修理技術者以外の人は水栓を分解したり、修理したりしないでください。</b> ※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。	
	<b>給水圧力は必ず給湯圧力以上にしてください。</b> ※正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。	
	<b>目盛り通りの湯が出るよう、必ず温度調節を行ってください。</b> ※使用条件によって目盛通りの湯が出ず、ヤケドをすることがあります。	
	<b>ストレーナーの掃除をする際は、必ず湯側水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。</b> ※湯・水が噴出してヤケドをしたり、家財などを濡らす財産損害発生の恐れがあります。	
	<b>お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。</b> ※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。	

### 本製品の仕様と使用条件

給湯器温度設定	85°C以下	使用可能水質	水道水および飲用可能な井戸水(※1)
使用環境温度	【一般地用】0~40°C 【寒冷地用】-20~40°C		但し、内部の水を凍結させないでください。
給水給湯接続	PJ1/2	圧力条件	0.05MPa(流動圧)~0.75MPa(静水圧) <b>給水圧力≥給湯圧力</b> ※2
取付ピッチ	90~160mm 120~210mm		BF-WM145TSG-AT, BF-WM145TNSG-AT 上記以外の品番

※1 飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいう。

※2 給湯圧力が給水圧力よりも高い場合、正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。

### ガス給湯器(比例制御式:16号相当)と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	A+0.08MPa(スプレーシャワー)、A+0.09MPa(スイッチシャワー)、 A+0.10MPa(多機能シャワー)、A+0.11MPa(スイッチ多機能シャワー)
最高圧力(静水圧)	0.75MPa

※Aはガス給湯器の最低作動圧力です。

測定条件は次の通りです。

- 開閉ハンドルは全開です。
- 給水温度5°C、吐出温度42°C(ガス給湯器との組み合わせが最も悪い冬季を想定)。
- 給水圧力はガス給湯器直前における流動圧です。
- ガス給湯器の設定温度は最高温です。

RBF-811型 BF-WM145TZSG型  
RBF-812型 BF-WM145TSG-AT型  
RBF-813型  
RBF-814型  
RBF-816型  
RBF-817型

### 工事店様へのお願い

貴店名ならびに据付引渡し日を保証書に記入の上、お客様に必ずお渡しください。また、定期的に交換が必要な部品があることをお客様に必ずお伝えください。

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。  
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客様にお渡しください。

### 貯湯式給湯器と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力(流動圧)	0.05MPa【スプレーシャワー】、0.07MPa【スイッチシャワー】 0.1MPa【多機能シャワー】、0.11MPa【スイッチ多機能シャワー】
最高圧力(静水圧)	0.75MPa

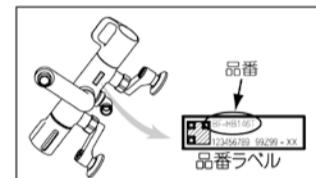
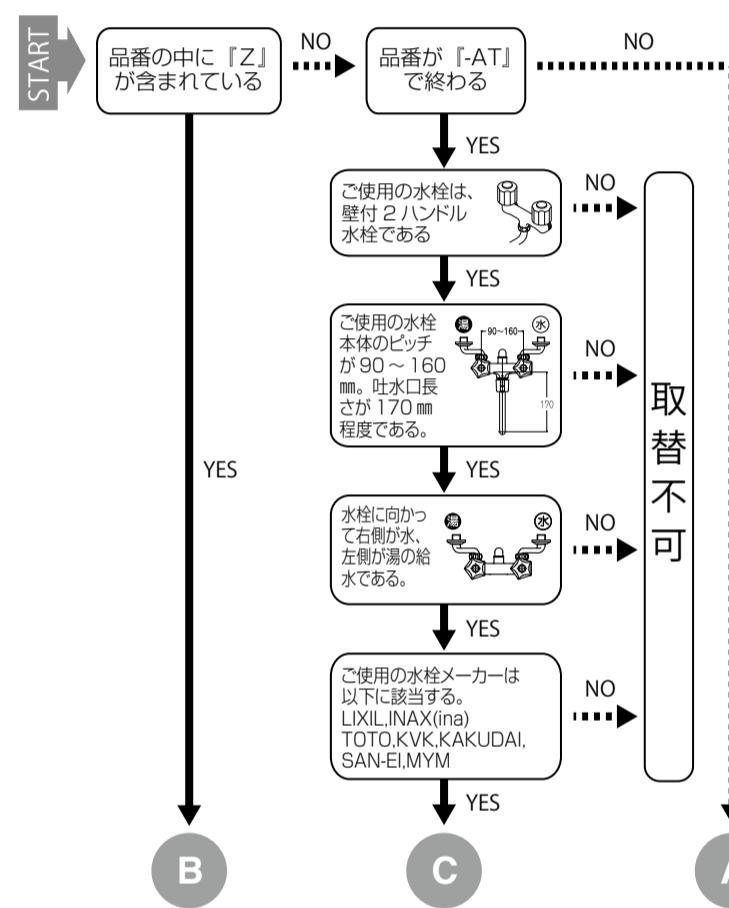
- 給水圧力と給湯圧力の差を小さくしてください。温度調節が容易になります。
- 給湯圧力が温水器の減圧弁によって0.08MPa以下に設定されている場合があります。この場合は別売の加圧ポンプにより給湯圧力を最低必要圧力まで上げていただく必要があります。
- 給湯圧力は水栓直前における流動時の圧力です。

### その他の条件

- 給水圧力が0.75MPaを越える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20~0.34MPa程度)に減圧してください。
- 十分な機能を発揮させるため、給湯器の給湯温度は50°C以上60°C以下にしてください。
- 不意な出湯によるヤケド防止のため、**給湯器の設定温度は60°C以下**にしてください。

### 施工前のご注意

水栓金具の品番ラベルを参照し、対象グループを確認してください。



→ YES  
-----> NO

### 取付けに必要な工具

シールテープ		精密ドライバー(-)		ドライバー(+)*1	
スパナ(呼び23)		歯ブラシ等		パイプレンチ(呼び300以上)*2	
スパナ(呼び30)		温度計		六角レンチ(呼び12)*2	
モンキーレンチ(呼び250以上)		電動ドリル*1		モーターレンチまたはプライヤー*2	
ドライバー(-)		アンカー*1			

※1: 必要に応じて準備

※2: グループA・Bの場合、必要に応じて準備

### その他の注意点

- 給水には水道水を使用してください。  
※温泉水など異物を多く含む水には使用できません。
- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。  
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
- 給湯配管はできるだけ短くし、必ず保温材を巻いてください。
- 商品の表面には直接工具を掛けないでください。  
※工具をかける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
- 開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。
- 必ず**配管中の異物を完全に洗い流してください。**

### 対象グループ A, B

- 古い水栓からの取替えの際は、**取付脚ごと交換してください。**

## 取替可能な水栓の確認方法

## 対象グループ C

ご使用の水栓の確認 YESのみ取替可能です。

①壁付ツーハンドル水栓である。 YES

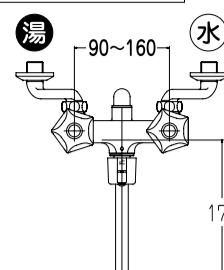
②水栓本体のピッチが90~160mmである、吐水口長さが170mm程度である。 YES

③水栓に向かって右側が水の給水、左側が湯の給水である。 YES

④水栓メーカーを確認し次表のメーカーに該当する。 YES

⑤アダプターを次表から選定する。 YES

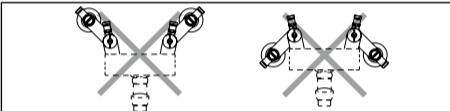
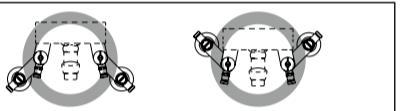
### 壁付ツーハンドル水栓



\*ご使用の水栓金具の吐水口長さが170mmよりも長い場合、吐水の位置が浴槽に届かなくなる場合があります。取付けの際はご注意ください。

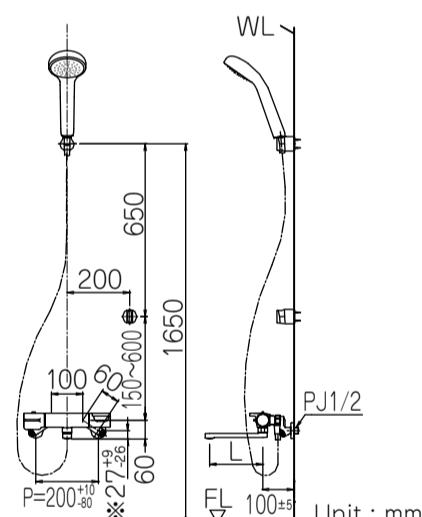
ご使用の水栓		別売アダプター(2個パック)		見分け方のポイント
メーカー	取付脚形状	形 状	品番	
INAX(ina)、KAKUDAI、KVK、SAN-EI、TOTOのツーハンドル水栓	水栓本体 Φ26.5 G3/4	不要	—	
TOTOの一部 (TM610型、T610型、TM660型、TK660型)	水栓本体 W28U18 Φ28 G3/4	A-4052		水栓本体側に ネジが見える 取付脚
MYMの場合	水栓本体 G3/4 Φ26.5	G3/4	A-4053	
KAKUDAI、KVKの一部	水栓本体 G3/4 Φ26.5	G3/4	A-4054	取付脚側に ネジが見える
KVKの一部	W30U20 Φ30	G3/4 W30U20	A-4055	水栓本体

●寒冷地の場合は取付けできない組合せがあります。



## 施工完了図

\*品番によっては図と現品の形状が異なります。

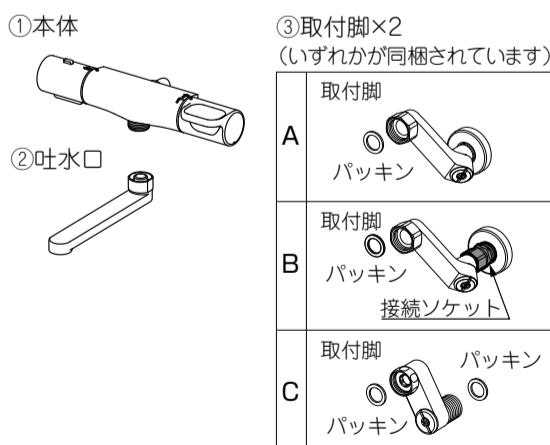


品 番	L
BF-WM145TZSG型	170
BF-WM145TSG-AT型	
RBF-811型	
RBF-812型, RBF-814型	
RBF-816型, RBF-817型	
BF-WM145TZSG(90)型	90
RBF-813型	
BF-WM145TZSG(250)型	250
BF-WM145TZSG(300)型	300

\*印寸法は、配管ピッチ(P)が最大～最小の場合を(標準寸法 最大 最小)示しています。

## 同梱部材

### 水栓金具



### 取扱説明書類

- ⑥取扱説明書(保証書付き)セット
- 取扱説明書(保証書付き) ハンドル使い方ラベル

\*品番によっては図と現品の形状が一部異なります。

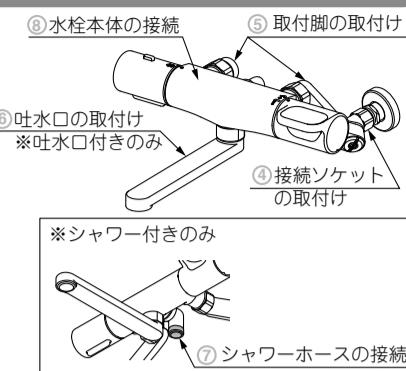
## 対象グループ C

## 2. 施工方法

対象グループの手順通り、正しく取り付けてください。

### 施工手順

対象グループ	手順	手順動画
A	① ② ③ → ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨	
B	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨	
C	① → ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨	



\* 水栓の対象グループ分けについては、「施工前のご注意」をご確認ください。

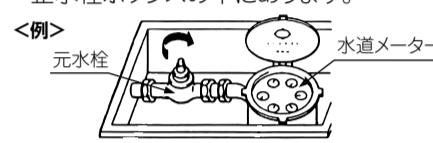
### 1. 古い水栓本体を取り外す

#### 対象グループ 全て

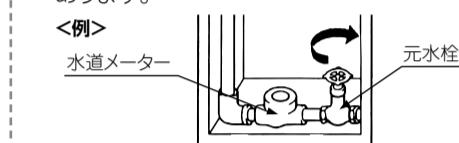
#### 1. 元栓を閉めます。

##### ポイント

- 戸建住宅の場合、敷地境界付近のメーターボックス内、またはその近くの止水栓ボックスの中にあります。



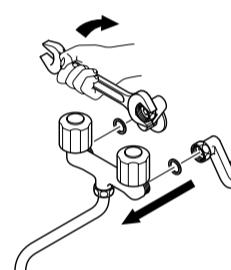
- 集合住宅(マンション等の中高層住宅)の場合、玄関付近にあるパイプシャフト内にあります。



##### 注意

水栓のレバーハンドルを開いて、水が出ないことを確認してください。

#### 2. 袋ナットを緩めて、取付脚から水栓本体を取り外します。



##### 注意

- 外した水栓本体を落とさないよう注意してください。  
※ 水栓本体は重量があり、ケガをする恐れがあります。
- 湯側の取付脚に注意してください。  
※ 湯をお使いの後は取付脚が高温になっており、ヤケドをする恐れがあります。
- ※ 取付脚内に滞留した高温の湯が出て、ヤケドをする恐れがあります。

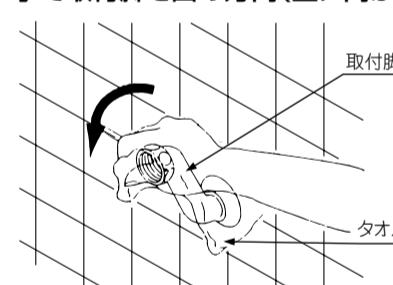
##### ポイント

袋ナットは交互に少しずつ緩める。

### 2. 古い取付脚を取り外す

#### 対象グループ A, B

#### 手で取付脚を図の方向(壁に向かって反時計回り)に回して取り外します。



##### ポイント

取付脚はゆっくりと回す。

##### 注意

- 湯側の取付脚、配管に注意してください。  
※ 湯をお使いの後は取付脚が高温になっており、ヤケドをする恐れがあります。
- ※ 取付脚、配管内に滞留した高温の湯が出て、ヤケドをする恐れがあります。

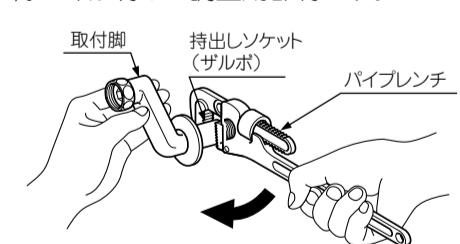
##### 注意

- 取付脚にタオル等を当てて作業してください。  
※ ネジ部で手を切る恐れがあります。
- 取付脚は無理に外さないでください。  
※ 給水管が古い場合、破損する恐れがあります。

### 取付脚と一緒に持出しソケット(ザルボ)が外れた場合

\* 持出しソケット(ザルボ)は給水管を壁まで取り出す際に取り付ける調整用部材です。

#### 1. パイプレンチ等で持出しソケット(ザルボ)を挟み、取付脚から取り外します。



#### 2. 持出しソケット(ザルボ)のネジ部のゴミを取り除きます。

##### 持出しソケット(ザルボ)

##### 注意

##### ポイント

- シールテープは引張り気味にネジの谷間に挟み込む強さで、ネジの締付方向(ネジに向かって時計回り)に巻き、巻き終わったらそのまま引張ってちぎる。
- シールテープの巻数は約5~7回が目安です。

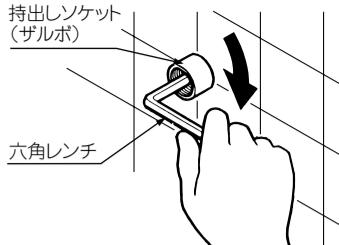


##### ポイント

- シールテープは逆方向に巻かないでください。  
※ 漏水の原因となります。

## 六角レンチがある場合

4. 持出しソケット(ザルボ)を給水管にねじ込み、六角レンチで締め付けます。

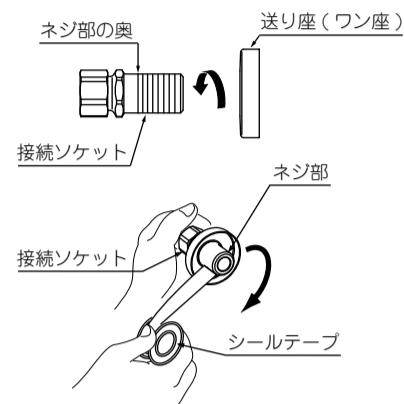


**注意** 給水管内にゴミやシールテープが付着している場合は、ブラシ等で取り除いてください。  
※漏水や水栓金具の故障の原因となります。

4. **接続ソケットの取付け** へ進んでください。

## 六角レンチがない場合

4. 接続ソケットの送り座(ワン座)を接続ソケットのネジ部の奥まで回し入れ、シールテープをネジ先端部に巻きます。



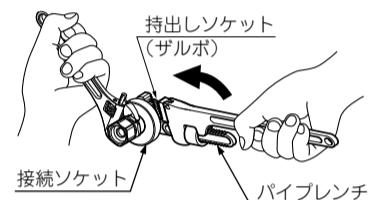
### ポイント

- シールテープは引張り気味にネジの谷間に挟み込む強さで、ネジの締付方向(ネジに向かって時計回り)に巻き、巻き終わったらそのまま引張ってちぎる。
- シールテープの巻数は約5~7回が目安です。

### 注意

- シールテープは逆方向に巻かないでください。  
※漏水の原因となります。

5. 持出しソケット(ザルボ)をパイプレンチ等で、接続ソケットのネジ部に取り付けます。



### 注意

- 接続ソケットに持出しソケット(ザルボ)を取り付けた状態で作業を進める場合、

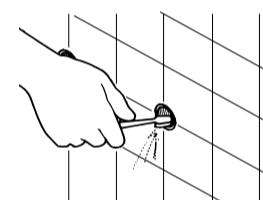
#### ④ 接続ソケットの取付け

文中の「接続ソケットのネジ部」は「持出しソケット(ザルボ)のネジ部」となりますので、ご注意ください。

## 3. 給水管内を掃除する

## 対象グループ A, B

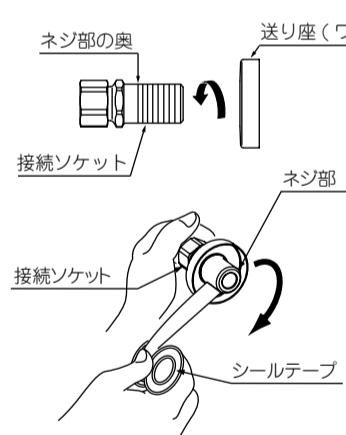
給水管内にゴミやシールテープが付着している場合は、ブラシ等で取り除きます。



## 4. 接続ソケットの取付け

## 対象グループ B

1. 送り座(ワン座)を接続ソケットのネジ部の奥まで回し入れ、シールテープをネジ先端部に巻きます。



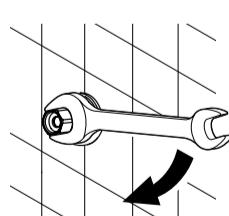
### ポイント

- シールテープは引張り気味にネジの谷間に挟み込む強さで、ネジの締付方向(ネジに向かって時計回り)に巻き、巻き終わったらそのまま引張ってちぎる。
- シールテープの巻数は約5~7回が目安です。

### 注意

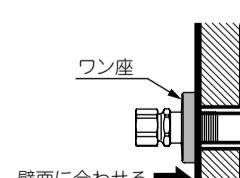
- シールテープは逆方向に巻かないでください。  
※漏水の原因となります。

2. 湯側、水側の接続ソケットを壁からの前出寸法が同一になるようにスパナ(呼び23)でしっかりと締め込みます。



壁面に対し直角のこと  
湯 ← 200+10 -80 → 水  
前出寸法  
100  
壁面に対し平行

3. 送り座(ワン座)を壁面に合わせます。



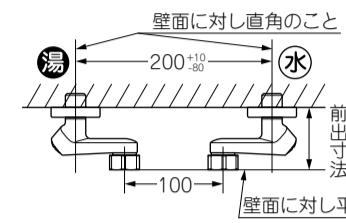
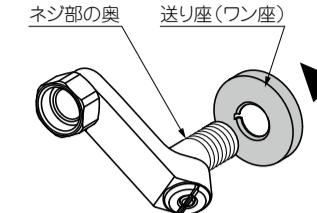
## 5

## 取付脚の取付け

## 対象グループ A

送り座(ワン座)を取付脚のネジ部の奥まで回し入れます。

取付脚にシールテープを巻き付け、下図に従って取り付けます。



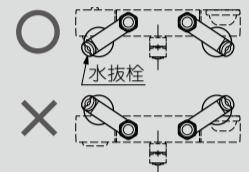
### ポイント

- シールテープは引張り気味にネジの谷間に挟み込む強さで、ネジの締付方向(ネジに向かって時計回り)に巻き、巻き終わったらそのまま引張ってちぎる。
- シールテープの巻数は約5~7回が目安です。
- ヤケド注意シールが貼り付けある取付脚を湯側に取り付けてください。

[湯側に取付け]

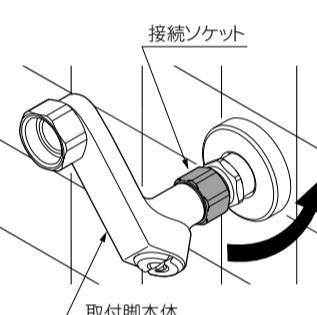


※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。



## 対象グループ B

取付脚本体を接続ソケットの袋ナットに取り付け、手で軽く締めます。



### 注意

- 接続ソケットの袋ナットにパッキンが入っていることを確認してください。  
※漏水の原因となります。



### ポイント

ヤケド注意シールが貼り付けある取付脚を湯側に取り付けてください。

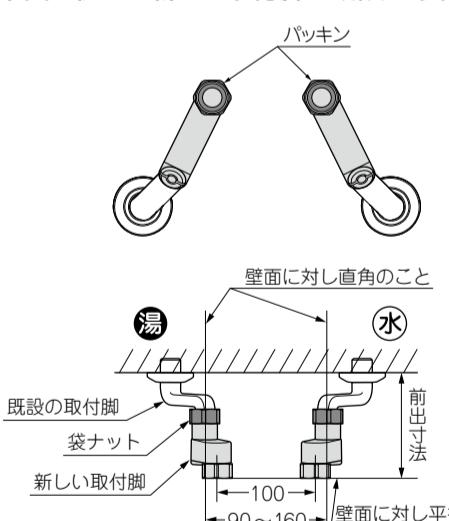
[湯側に取付け]



※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

## 対象グループ C

下図に従って新しい取付脚を既設の取付脚の袋ナットに取り付け、手で軽く締めます。



### 注意

- 取付脚本体の袋ナットにパッキンが入っていることを確認してください。  
※漏水の原因となります。



### ポイント

ヤケド注意シールが貼り付けある取付脚を湯側に取り付けてください。

[湯側に取付け]



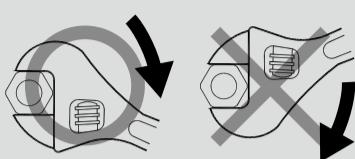
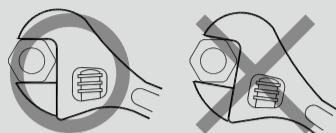
※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

## 6 吐水口の取付け

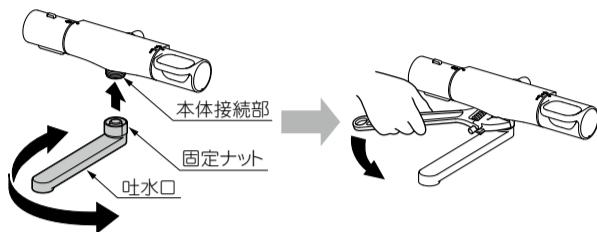
### 対象グループ 全て



- 注意**
- 必ず、先に吐水口を水栓本体へ取り付けてください。  
※ 後から取り付けると、吐水口を落として床を傷つけたり、ケガをする恐れがあります。
  - 袋ナットの締付けにモンキーレンチを使用する場合は、先端の幅を袋ナットの2面幅に合わせてください。  
※ 締付不足により、漏水の原因となります。
  - 袋ナットの締付けにモンキーレンチを使用する場合は、工具の向きにご注意ください。  
※ 締付不足により、漏水の原因となります。  
※ 水栓金具や工具が破損する恐れがあります。



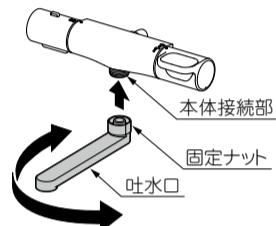
吐水口を本体接続部に挿し込み、モンキーレンチ(呼び250以上)等を用いて固定ナットをしっかりと締め付けます。



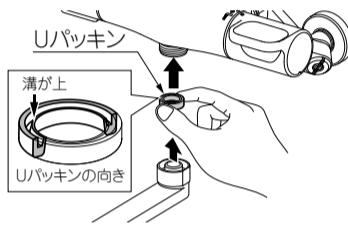
**注意** 本体内にUパッキンが装着されていることを確認してください。  
※ Uパッキンがないと漏水の原因となります。

#### ポイント

- 挿し込みにくい場合は、吐水口を左右に振りながら押し込んでください。



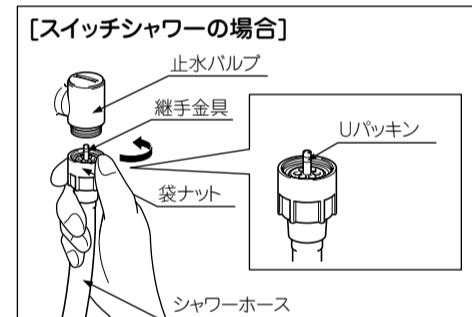
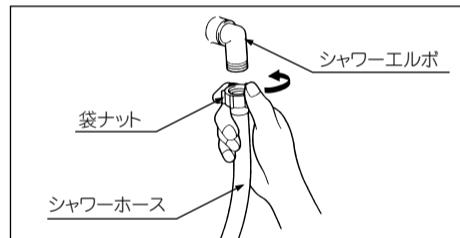
- Uパッキンが脱落した場合は、先にUパッキンを水栓本体に挿入してから、吐水口を挿し込んでください。



## 7 シャワーホースの取付け

### 対象グループ 全て

シャワーホースをシャワーエルボ、または止水バルブに接続し、手締めでしっかりと固定します。

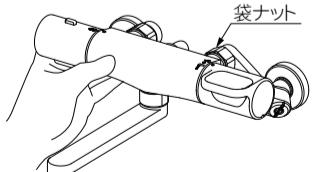


- 注意**
- 袋ナットの締付けに工具は使用しないでください。  
※ 工具を使用すると袋ナットが破損する恐れがあります。
  - 袋ナット内にパッキンが入っていることを確認してください。  
※ 漏水の原因になります。
  - シャワーホースは取付脚の下に出るように取り付けてください。  
※ ホースの折れや破損の原因となります。
- [スイッチシャワーの場合]
- Uパッキンにキズをつけたり、ゴミを付着させないようにしてください。  
※ 手元スイッチでの止水ができなくなります。

## 8 水栓本体の取付け

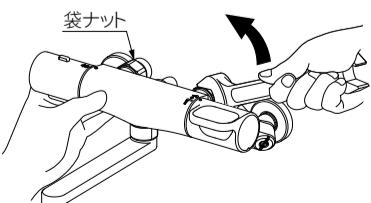
### 対象グループ A, B

1. 水栓本体を取付脚の袋ナットに取り付け、手で軽く締めます。



**注意** 取付脚の袋ナットにパッキンが入っていることを確認してください。  
※ 漏水の原因となります。

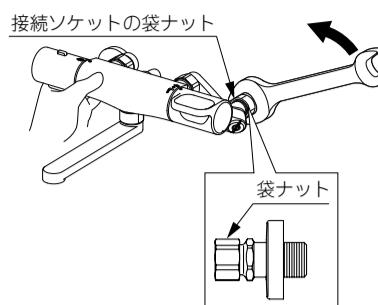
2. 水栓本体を水平にし、スパナ(呼び30)で取付脚の袋ナットを締め付けます。



**ポイント** 水栓本体は重量があります。落下等に十分注意して作業してください。

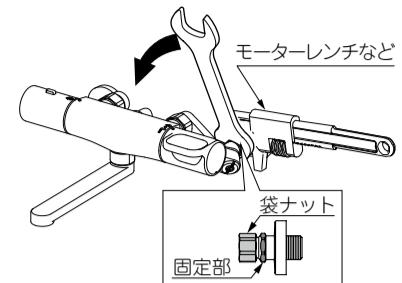
## 対象グループ B

3. スパナ(呼び23)で接続ソケットの袋ナットを締め付けます。

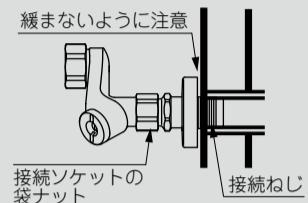


#### ポイント

袋ナットを締め付ける際に壁との接続ねじが緩む場合は、モーターレンチかプライヤなどで緩まないように固定する。

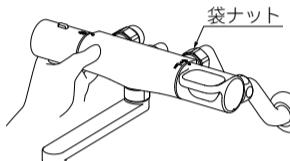


**注意** 袋ナットを締め付ける際に、壁との接続ねじが緩んでしまった場合は、シールテープを巻き直して再度取り付けてください。  
※ 漏水の原因となります。



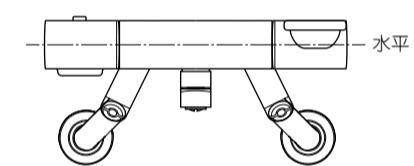
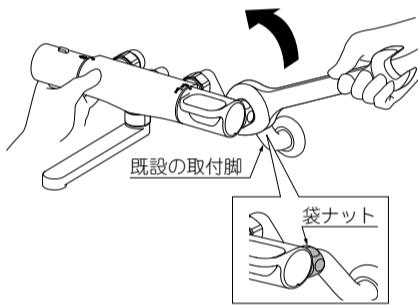
### 対象グループ C

1. 水栓本体を取付脚の袋ナットに取り付け、手で軽く締めます。



**注意** 取付脚の袋ナットにパッキンが入っていることを確認してください。  
※ 漏水の原因となります。

2. 水栓本体を水平にし、スパナ(呼び30、23)で袋ナット(新しい取付脚、既設の取付脚)を締め付けます。



**注意** 水栓本体は重量があります。落下等に十分注意して作業してください。

**ポイント** 水栓が水平に取り付くように注意しながら、湯側・水側の袋ナットを交互に締め付け、しっかりと固定する。

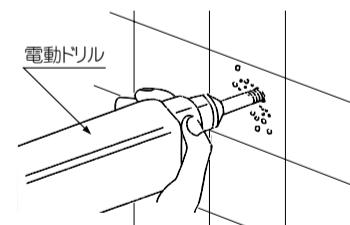
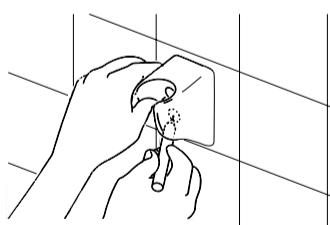
## 9 シャワーフックの取付け

### 対象グループ 全て

シャワーフックを壁面に取り付けます。

※ 既設のシャワーフックを利用する場合は、取り付ける必要はありません。  
※ 既設のシャワーフックを外した場合は、防水処理及び仕上げ処理をしてください。

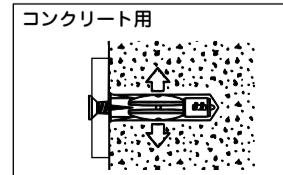
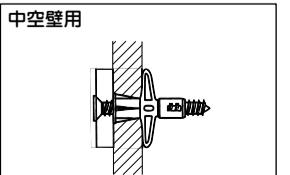
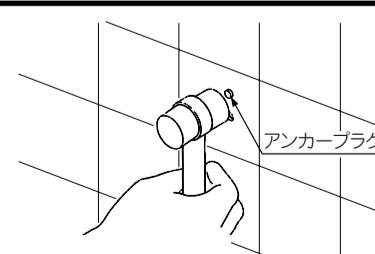
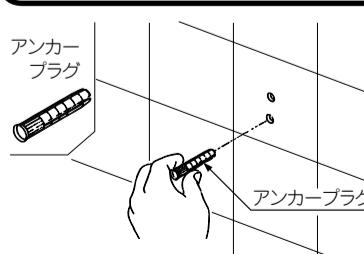
1. 施工完了図を参考にシャワーフックの取付位置を決めて、ネジ穴をマーキングして電動ドリルで穴あけをします。

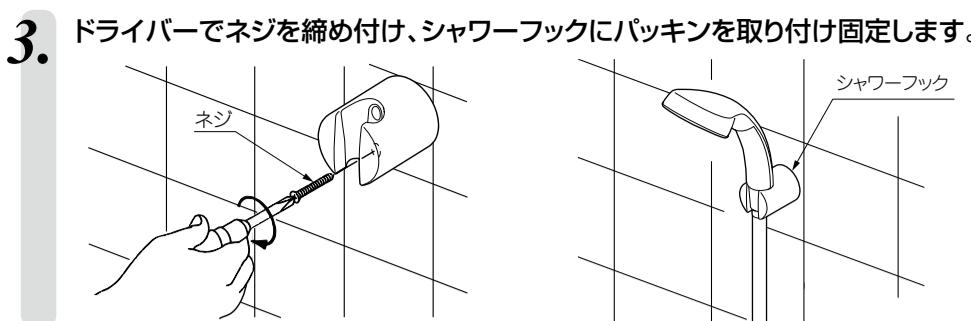


2. ネジ(呼び4.5×30mm)にあったアンカーブラグをネジ穴に挿しこみ、壁からはみ出さないようにハンマー等で軽くたたいて埋め込みます。

**注意**

- アンカーブラグは別途ご用意ください。
- コンクリート用と中空壁用のアンカーブラグがあります。コンクリート壁の場合はコンクリート壁用をご使用ください。ユニットバスの場合は中空壁用をご使用ください。
- ネジ穴を開ける時には、壁面裏側のガス管や給水管等にご注意ください。



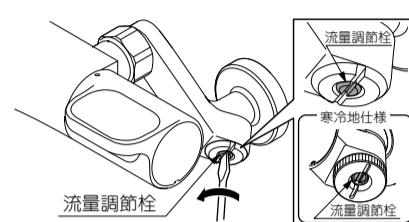


### 3. 施工後の調節

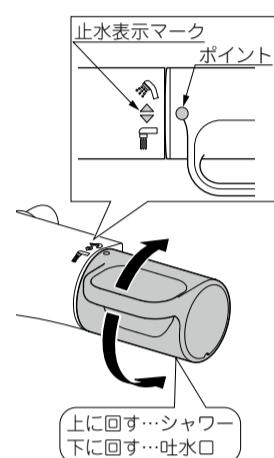
以下の手順通り、正しく調節してください。

#### 1 通水確認

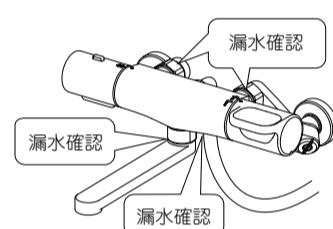
1. マイナスドライバーで湯側・水側の流量調節栓を開きます。



2. 切替ハンドルを下側(吐水口)に回し、吐水口から水が出ることを確認する。また、切替ハンドルを上側(シャワー)に回し、シャワーから水が出ることを確認する。  
※品番によっては操作方法が異なります。



3. 水を止め、接続部から漏水がないことを確認します。



#### 2 ストレーナーの掃除

初期通水後のゴミを取り除くために、取付脚のストレーナーを掃除してください。

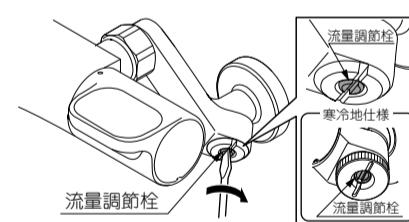
**注意** ストレーナーの掃除をする前に必ず流量調節栓を閉めてください。  
※閉じずに作業を行うと高温の湯が吐出しやけをしたり、家財等を濡らす財産損害発生の恐れがあります。

1. マイナスドライバーで湯側・水側の流量調節栓を閉じます。

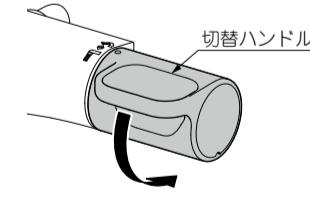
**注意** 作業前に湯側(左)の取付脚が熱くないか確認してください。  
※ヤケドの恐れがあります。

**ポイント**

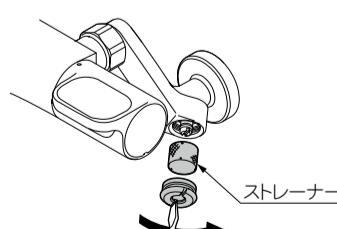
- 湯側・水側の両方行うこと。
- 右側いっぱいまで回すこと。
- 閉じるときに、どの程度回転させたか覚えておくと清掃後の開度調整が容易になる。



2. 切替ハンドルを回し残水を排出します。



3. マイナスドライバーでホルダーを緩めストレーナーを取り外します。



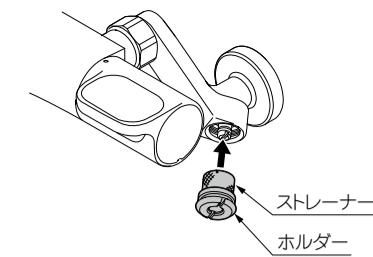
4. ストレーナーに付いたゴミや汚れを歯ブラシ等を使用し水洗いします。



5. ホルダーとストレーナーを取り付け、流量調節栓を元の位置まで開けます。

#### ポイント

- 流量調節栓は、必ずホルダーとストレーナーを取り付けた後に開けること。
- 湯側・水側の両方行うこと。



### 3 給湯温度の設定

サーモスタッフ混合栓は、湯水を混合して吐水温度を調整しています。このため、給湯器の設定温度より、吐水温度は低くなります。

- 給湯器の設定温度は希望の吐水温度より高めに設定してください。

※給湯温度は**50°C以上60°C以下**の設定をお勧めします。

ただし、ヤケド防止のため、60°Cを超えない設定にしてください。

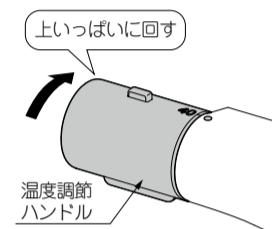
- 流量を絞って使用すると給湯器が着火しない場合があります。

※給湯器の取扱説明書にて最低作動流量をご確認の上、ご使用ください。

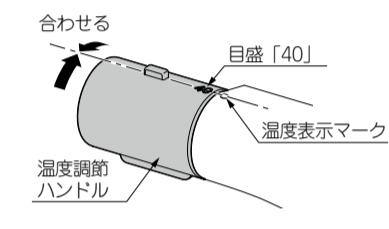
#### 4 流量の調整

流量が多い場合は、湯側・水側の流量調節栓をそれぞれ次の手順で調整してください。

1. 温度調節ハンドルを合わせます。  
上(水側)いっぱいに回します。



4. 温度調節ハンドルの目盛「40」と温度表示マークを合わせます。



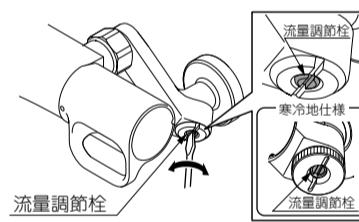
2. 切替ハンドルを下側(吐水口)へ回し、全開で吐水します。  
※品番によっては操作方法が異なります。



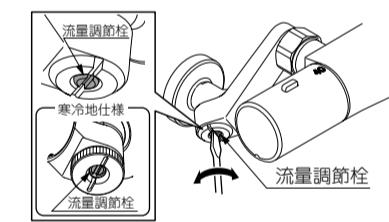
5. 切替ハンドルを下側(吐水口)へ回し、全開で吐水します。  
※品番によっては操作方法が異なります。



3. マイナスドライバーで水側(右)の流量調節栓を調整します。



6. マイナスドライバーで湯側(左)の流量調節栓を調整します。

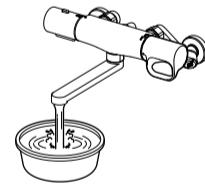


#### ポイント

最適な流量とは…

洗面器(容量3L)をいっぱいにするのに、約10秒弱が目安です。  
(=20L/分程度)

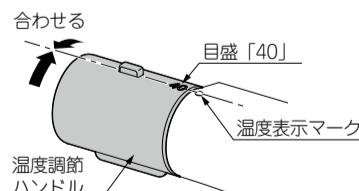
※シャワー流量も快適になっているか、あわせてご確認ください。



### 5 吐水温度の確認

温度調節ハンドルは出荷時に設定していますが、使用条件(給水・給湯圧力、給湯温度)が異なると、表示どおりの温度が出ないことがあります。吐水温度が表示どおりになっているか次の手順で確認してください。

1. 温度調節ハンドルの目盛「40」を温度表示マークに合わせます。



2. 切替ハンドルを上側(シャワー)に回して全開にし、吐水温度を確認します。  
※品番によっては操作方法が異なります。



吐水温度が	適温(約40°C)である	そのままご使用いただけます。
	適温(約40°C)に合っていない	下記の「温度調節ハンドルの設定」を参照し再調整をしてください。 LIXIL修理受付センターにおいてもハンドル調整を承りますが、保証期間内でも有料作業となります。

## 6

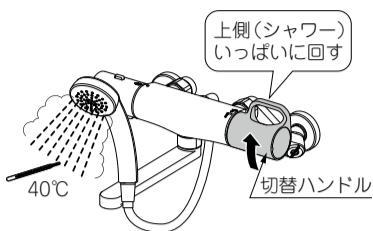
## 温度調節ハンドルの設定

吐水温度と温度調節ハンドルの表示が合っていない場合は、次の手順で再調整してください。  
LIXIL修理受付センターにおいてもハンドル調整を承りますが、保証期間内でも**有料作業**となります。

※ハンドルの設定手順は、動画でもご確認頂けます。



- 1.** 切替ハンドルを上側(シャワー)に回して全開にし、目盛「40」に関係なく吐水温度が約40°Cになるように温度調節ハンドルを回します。  
※品番によっては操作方法が異なります。

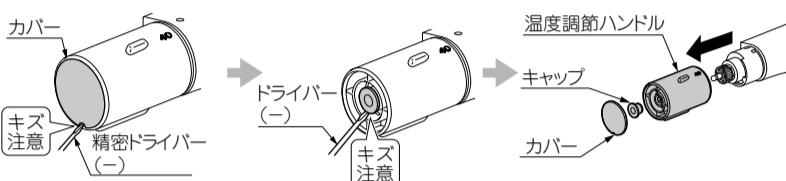


## ポイント

## 【高温の湯を出す場合】

温度調節ハンドルには、安全ボタンがついており、目盛「40」を少し過ぎたところで一度ロックされます。さらに高温側に回したいときは、安全ボタンを押しながら回します。

- 2.** 吐水温度が適温(約40°C)になったところで止水し、温度調節ハンドルが回らないように注意して、カバー、キャップ、温度調節ハンドルの順に取り外します。

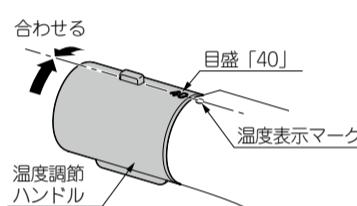


**注意** カバー・キャップを取り外す時は、  
慎重に行ってください。  
※無理に取り外そうとすると、キズ、  
破損の原因になります。

## ポイント

キャップを外すと温度調節ハンドルは手で  
引っ張るだけで外れます。

- 3.** 取り外した温度調節ハンドルの目盛「40」が温度表示マークに合うように温度調節ハンドルをはめて、キャップ、カバーを取り付けます。



**注意** 取付け後は、温度調節ハンドルの目盛「40」で吐水温度が約40°Cになっているかを確認してください。  
※高温の湯が出て、ヤケドの恐れがあります。

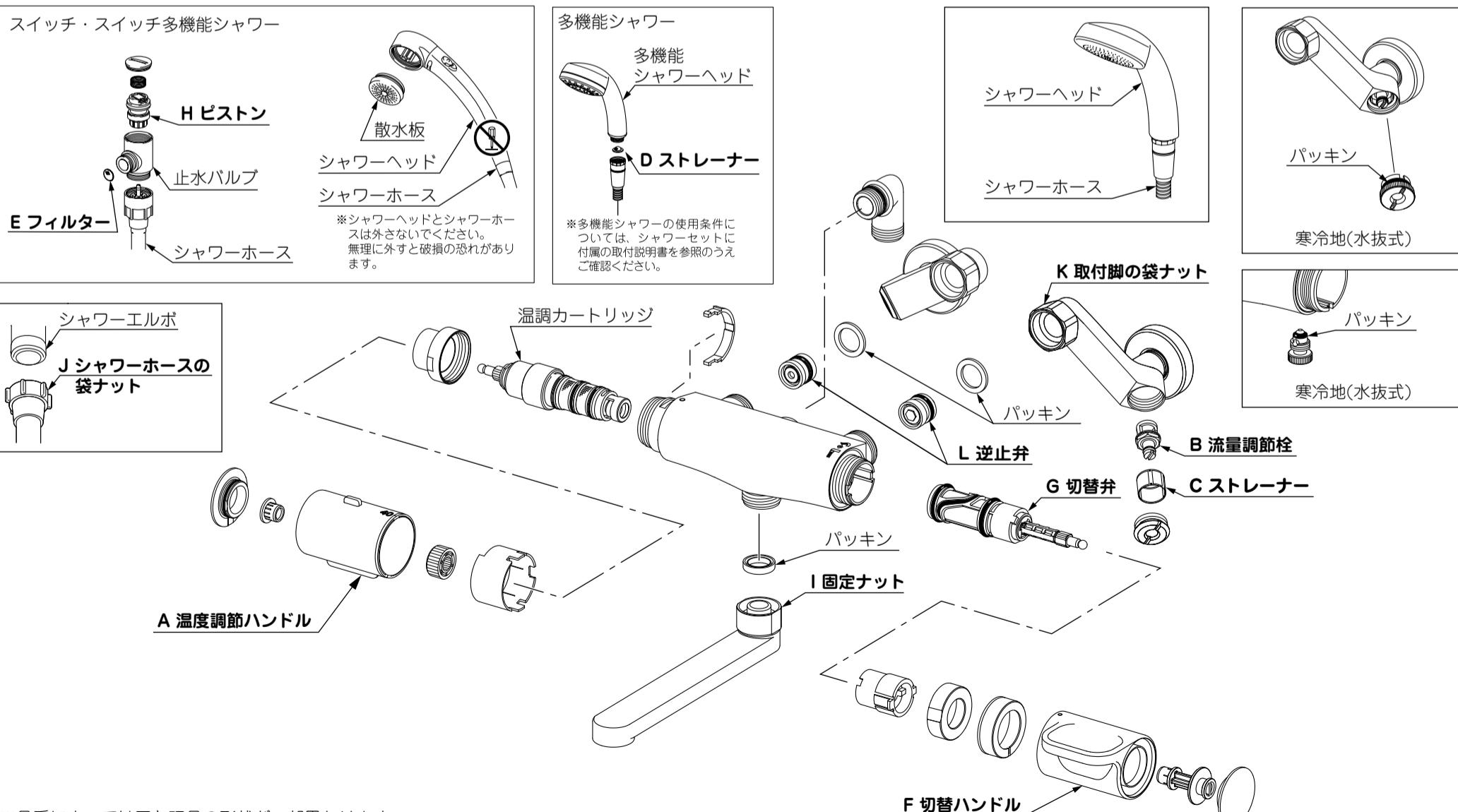
## ポイント

キャップを奥までしっかりと挿入します。

## 4. 引渡前の確認

お客様に引き渡す前にもう一度通水し、以下のような現象がないか確認してください。  
※点検箇所は、下図を参照してください。

現象	点検内容	点検箇所	処置	参照項目
温度が安定しない、 温度調節がうまくできない	圧力は十分か?	—	圧力条件を確認する。	施工の前に 「本製品の仕様と使用条件」
	しばらく流しても改善しないか?	—	温度が安定するまでお湯を出し続けてから使用する。	
	他の場所(トイレ、キッチン、洗面など)で同時に水栓を使用していないか?	—	他の場所の水栓と同時に使用しないようにする。	
	給湯器の温度は正しく設定されているか?	—	給湯温度を50°C以上60°C以下の設定にする。	施工後の調整 「吐水温度の確認」
	温度調節ハンドルの設定と吐水温度は合っているか?	A	温度調節ハンドルの再調整をする。	施工後の調整 「吐水温度の確認」・ 「温度調節ハンドルの設定」
	流量調節はされているか?	B	適正流量に調節する。	施工後の調整「流量の調整」
流量が少ない	ストレーナーにゴミが詰まっているか?	C	ストレーナー汚れや目詰まりを取り除く。	施工後の調整 「ストレーナーの掃除」
	給湯器の温度は正しく設定されているか?	—	給湯温度を50°C以上60°C以下の設定にする。	施工後の調整 「吐水温度の確認」
	圧力は十分か?	—	圧力条件を確認する。	施工の前に 「本製品の仕様と使用条件」
	流量調節栓は十分に開いているか?	B	流量調節栓を十分開く。	施工後の調整「流量の調整」
	ストレーナーやシャワー散水板にゴミが詰まっているか?	C, D	ストレーナー汚れや目詰まりを取り除く。	施工後の調整 「ストレーナーの掃除」 シャワーへッド取扱説明書
	【スイッチシャワーの場合】 止水バルブのフィルターにゴミが詰まっているか?	E	水栓本体から止水バルブを取り外し、接続部にあるフィルターを掃除する。	
流量が多いすぎる	配管途中に大きな抵抗はないか?	—	抵抗となる障害物を取り除く。	
	切替ハンドルを絞りすぎていないか?	F	切替ハンドルを開く。	
	流量調節はされているか?	B	流量調節栓を絞る。	施工後の調整「流量の調整」
	ゴミかみはないか?	G, H	ゴミ等を水で洗い流す。	
	Oリング、シートにキズはないか?	G, H	キズがあれば部品を交換する。	
	吐水口接続部から水が漏れているか?	I	吐水口の固定ナットをしっかりと締める。	施工方法「吐水口の取付け」
接続部から水漏れする	シャワーホース接続部から水が漏れないか?	J	シャワーホースの袋ナットをしっかりと締める。	施工方法 「シャワーホースの取付け」
	取付脚と本体の袋ナットから水が漏れないか?	K	取付脚の袋ナットをしっかりと締める。	施工方法 「水栓本体の取付け」
	逆止弁は正常か?(ゴミ、砂噛みはないか?)Oリングにキズはないか?)	L	ゴミ等を水で洗い流す。 キズがあれば部品を交換する。	
湯水の逆流がある	水栓本体から音がする	B	流量調節栓を適切に絞って	施工後の調整「流量の調整」
	シャワーヘッドがフックから浮き上がる	B	流量調節栓を適切に絞る。	施工後の調整「流量の調整」
	逆止弁の位置は正しいか?	—	シャワーフックの取付位置を確認する。	施工の前に「施工完了図」
水栓本体がガタつく	水栓本体がガタつく	K	取付脚の袋ナットをしっかりと締める。	施工方法 「水栓本体の取付け」
	ゆるみはないか?	K	ゆるみはないか?	
	ゆるみはないか?	K	ゆるみはないか?	



※品番によっては図と現品の形状が一部異なります。